

グアテマラ経済(2008年1月)

平成20年2月

在グアテマラ日本国大使館

『1月の主な動き』

- 2007年度のグアテマラの輸出は6,925.7百万米ドル(前年比15.2%増)、輸入は13,578.1百万米ドル(前年比14.0%増)で、収支は6,652.4百万米ドルの赤字(前年比12.7%増)となった。
- 2日、寒波到来による強風のため、送電システムが損傷を受け、グアテマラは全国的な停電となった。
- メアニー新エネルギー・鉱山大臣は、エネルギー関連コスト節約の観点から、4月から9月の5ヶ月間、サマータイム制を導入することを検討していると述べた。
- グアテマラを代表するラム酒、サカパ・センテナリオの製造メーカーが、世界的な販売展開にむけ、英国ディアジオ(DIAGEO)社と提携することを発表した。

1. 主な経済指標

(1) 為替レート(中銀)

1月のケツアル対ドル相場は1ドル=Q7.63-7.78のレンジで推移。月末に向けてケツアル安ドル高の傾向に転じ、ケツアル最安値(Q7.78/US\$)で終了した。

(2) 消費者物価指数(国立統計院 INE)

1月、消費者物価指数は前月比で0.99%上昇し、年率では8.39%の上昇となった(前年同月のインフレ率(年率)は6.22%)。なお、中銀は、2008年のインフレ目標を5.5±1.5%に設定している。

インフレ率上昇の原因は、引き続き、原油の国際価格上昇に基づくエネルギー関連のコスト上昇、ならびに一部食料品価格の上昇に求められている。

項目別では、食料品・飲料(アルコールを除く)・外食部門と運輸・通信部門のインフレが先月に引き続き顕著で、それぞれ年率で11.87%、9.06%の上昇を記録した。牛乳(前月比5.10%上昇)、パン(同3.42%上昇)、米(同2.79%上昇)に加え、鶏肉(同2.43%上昇)の価格も上昇しており、穀物からなる家畜用配合飼料の価格上昇が影響しているとみられる。

また、1月には新教育年度が開始したことから、学費の値上げ等のため、教育関連費用が時期的な上昇を記録した(前月比 4.09%、年率 4.92%)。

基礎的食料品バスケット Canasta Basica de Alimentos(1世帯 5.38 人分のカロリーとタンパク質の摂取を満たす最低限の食料 26 品目)の価格は、前月比 Q22.46(約 2.92 米ドル)上昇し、Q1,687.27/月(約 219.13 米ドル)と、過去最高値を記録した。また、基礎的生活バスケット(基礎的食料品バスケットに、生活に不可欠な財と最低限のサービスを加えたもの)の価格も、Q40.98(約 5.32 米ドル)上昇し、Q3,078.96/月(約 399.86 米ドル)と、過去最高値を記録した。

(3)政策金利

国内のインフレ傾向は続いているが、政策金利は 6.50%に維持された(2007 年 12 月 27 日)。

(4)貿易統計(中銀) (2. 対外経済トピックス (1) 参照)

12 月の輸出は 581.0 百万米ドル(前年同月比 20.0%増)、輸入は 1,165.6 百万米ドル(前年同月比 20.7%増)であった。

2007 年度の輸出総額は 6,925.7 百万米ドル(前年比 15.2%増)、輸入総額は 13,578.1 百万米ドル(前年比 14.0%増)であり、2007 年度の貿易収支は 6,652.4 百万米ドルの赤字(前年比 12.7%増)となった。

(5)海外送金(中銀)

1 月の海外送金は、前年同月(287.1 百万米ドル)に比べ 27.5 百万米ドル(9.58%)多い、314.6 百万米ドルに上った。

2. 国内経済トピックス

(1) 全国的な停電(1月2日)

2 日、寒波到来による強風のため、倒木などにより国内送電システムが損傷を受けたことから、グアテマラは全国的な停電に陥った。首都グアテマラシティも、2 日午後から停電となったが、原因は、太平洋側にある発電所と首都圏を結ぶエスクイントラ-レタウレウ間の送電塔が複数倒れたことによる。なお、送電塔の倒壊については、強風もさることながら、度重なる部品の盗難も影響し

たとされている。

首都圏における電力の復旧は比較的早かったものの、その他の地域においては作業が遅れ、また修復期間中(概ね 6 日まで)も電力供給に制限が設けられるなど、国内に様々な支障を来した。

グアテマラでは、96 年に電力法が制定されて以降、発電ならびに一部配電サービスが民営化されているが、以降、電力網の増幅・拡大が目指されて来た一方で、危機管理体制の整備・強化はなおざりにされがちであるとされる。電力庁(INDE)は、今後、民間企業に対するインセンティブを設けるなどして、不測の事態に備える体制を強化していくとしている。

(2) メアニー新エネルギー・鉱山大臣、サマータイム制導入を検討

14 日、コロン新政権発足と共に就任したメアニー新エネルギー・鉱山大臣は、エネルギー問題に対する政府の緊急対応が求められているなか、4 月から 9 月の 5 ヶ月間、国家の標準時刻を 1 時間早めるサマータイム制を導入することを検討していると述べた。

サマータイム制は、2006 年 4 月から 9 月にかけて導入されたことがあり、エネルギー関連費用 64 百万ケツアルの節約に繋がったとされているが、成果の程については、未だ、民間セクターでも意見が分かれている。また、エネルギー問題の根本的な解決とはならないため、新規投資による発電量の増大や代替エネルギーの開発等を並行的に進めていく必要性が説かれているほか、通勤・通学が明け切らぬ時間帯に行われることとなるため、治安対策の強化が必須となるとの声もある。

サマータイム導入は、今後閣議決定を経て、政令として発表される必要がある。

(3) 中国企業の進出計画中止

生地原料となる紡績糸を生産する Shandong Daiyin Group 社(中国山東省)は、07 年 1 月、グアテマラにおける総額 35 百万米ドルの投資計画を発表していたが、昨今のエネルギー関連コストの上昇を理由に、進出中止を決定したと発表した。同社は、中米域内で米国市場向けの衣類輸出を行う縫製業者に対し、紡績糸を低価格で供給することを目的としていたため、進出の暁には、域内の縫製業者の価格競争力の向上も見込まれていた。

グアテマラにおけるエネルギー関連のコスト高に関しては、非伝統輸出産品輸出業者組合(AGEXPORT)服飾縫製・繊維部門(Vestex)が、マキラによる服飾縫製業にかかる 1 キロワットあたりのコストが、グアテマラでは 0.19 米ドルであるのに対し、中米地域の他国においてはおよそ 0.10 米ドルで可能であるとの調査結果を発表している。グアテマラにおいては、96 年の電力法制定、ならびに発電・一部配電サービスの民営化以降、電力セクターが実質的に限られた民間

企業による半独占状態に置かれて来ているとし、故に、他国に比してコスト削減や競争力強化に劣っているとする見方もある。

(4) イサバル県のニッケル採掘プロジェクト延期

カナダ資本の鉱産資源採掘企業Sky Resources社の子会社である、グアテマラ・ニッケル社(La Compañía Gatemalteca de Níquel: CGN)は、国際市場における資金調達の困難を理由に、イサバル県エル・エストールに予定していたプロジェクト・フェニックスを一時延期することを発表した。Sky Resources社は、2004年にエル・エストールにおける採掘権を獲得して以降、2006年にはフィージビリティ調査の結果を提出、2007年7月に環境天然資源省の許可を取得し、今後5年間で640百万米ドルの投資を行い、ニッケル採掘に取りかかる予定となっていた。

Sky Resources社のプロジェクト・フェニックスからの撤退の可能性は否定されたが、プロジェクト再開の時期は未定であり、また他者との合併事業となる可能性も否定されていない。

Sky Resources社は、鉱山開発にあたり、周辺住民の生活改善と環境保護には可能な限り配慮するとしてきたが、一部環境活動家の反対を受けていたほか、昨年からは、プロジェクトの敷地内におよそ150世帯が不法侵入し、生活しているとされている。

(5) イスラエル民間企業、風力発電への投資を検討

国家競争力プログラム(PRONACOM)によると、イスラエルのエネルギー関連の民間企業が、グアテマラにおける風力発電事業を検討すべく、フィージビリティ調査を開始した。計画によれば、60百万米ドルの投資により、45メガワットの風力発電地帯が設けられる予定。

グアテマラの電力産業に対しては、複数のイスラエルの民間企業が積極的な投資を行っているとされ、これまでに同国企業によりなされたエネルギー関連の投資は、200百万米ドルを下らないとされている。

(6) 職業訓練庁(INTECAP)ホテル学校設立

職業訓練庁(INTECAP)は、ホテル・サービス、観光、料理等を専攻する学生の学びと実践の場として、エスクイントラ県に国内初のホテル学校を設立した。グアテマラ観光業の促進に寄与する試みであるとして、グアテマラ政府観光局(INGUAT)も期待をかけている。

ホテル学校には、各種の最新設備を備えた宿泊用の部屋が93室あり、学校運営費用も一部、宿泊代によりまかなわれることとなるが、一般開放はせず、民間企業と提携し、従業員向けの研修等のため利用されることとなる見込み。授業は今年4月から開始される予定となっており、学生は、関連の課業を、最大2年かけて学ぶこととなる。

3. 対外経済トピックス

(1) 2007 年度貿易統計：中銀

● 2007 年度貿易収支 単位：百万米ドル

		前年比成長率
輸出	66,925.7	15.2%
輸入	13,578.1	14.0%
貿易収支	△6,652.4	12.7%

● 輸出相手国 単位：百万米ドル

			占有率	前年比成長率
1	米国	2,932.5	42.4%	5.4%
2	中米地域※	1,961.1	28.3%	19.3%
3	メキシコ	464.0	6.7%	30.9%
4	パナマ	119.6	1.7%	21.7%
5	カナダ	111.3	1.6%	11.8%

※内訳は、高い順にエルサルバドル 842.1 百万ドル、ホンジュラス 593.5 百万ドル、ニカラグ
ア 267.6 百万ドル、コスタリカ 257.8 百万ドル

●輸出品目（中米地域向けを除く） 単位：百万米ドル

			占有率	前年比成長率
1	服飾縫製品	1,343.9	19.4%	△11.4%
2	コーヒー	577.5	8.3%	24.6%
3	砂糖	358.1	5.2%	20.0%
4	バナナ	311.1	4.5%	44.4%
5	果実(含、加工品)	282.1	4.1%	45.8%

●輸入相手国 単位：百万米ドル

			占有率	前年比成長率
1	米国	4,589.1	33.8%	12.7%
2	メキシコ	1,212.5	8.9%	24.2%

3	中国	1, 184. 2	8. 7%	23. 0%
4	中米地域※	1, 006. 5	7. 4%	13. 6%
5	日本	504. 9	3. 7%	10. 5%

※中米地域の内訳は、高い順にエルサルバドル 480. 9 百万ドル、コスタリカ 328. 9 百万ドル、ホンジュラス 138. 8 百万ドル、ニカラグア 57. 9 百万ドル

●対日貿易（2004－2007 年の対日貿易動向） 単位：百万米ドル

	2004 年	2005 年	2006 年	2007 年	対 2006 年比
対日輸出	27. 9	38. 5	45. 1	59. 1	31. 2%
対日輸入	417. 1	398. 5	457. 6	504. 9	10. 5%
対日貿易収支	△389. 2	△360. 0	△412. 5	△445. 8	8. 1%

●2007 年度対日輸出品目 単位：百万米ドル

			占有率	前年比成長率
1	コーヒー	42. 9	72. 7%	43. 9%
2	ゴマ	10. 2	17. 2%	19. 7%
3	カルダモン	1. 2	2. 1%	868. 5%

- ・農業関連製品の割合が、対日輸出全体の 96. 9%を占めている
- ・コーヒーとゴマの 2 品目で、対日輸出全体の 89. 9%を占めている
- ・以下、観葉植物 0. 98 百万ドル、アルコール飲料・酢 0. 72 百万ドル

●対日輸入品目 単位：百万米ドル

			占有率	前年比成長率
1	自動車関連製品	331. 8	65. 7%	11. 2%
2	鉄鋼	67. 1	13. 3%	△10. 0%
3	電子機器・機械	34. 7	6. 9%	10. 6%

- ・工業製品の割合が、対日輸入全体の 86. 3%を占めている

(2)SIECA「統計報告 16. 1 号」より：中米 5 カ国の対外通商

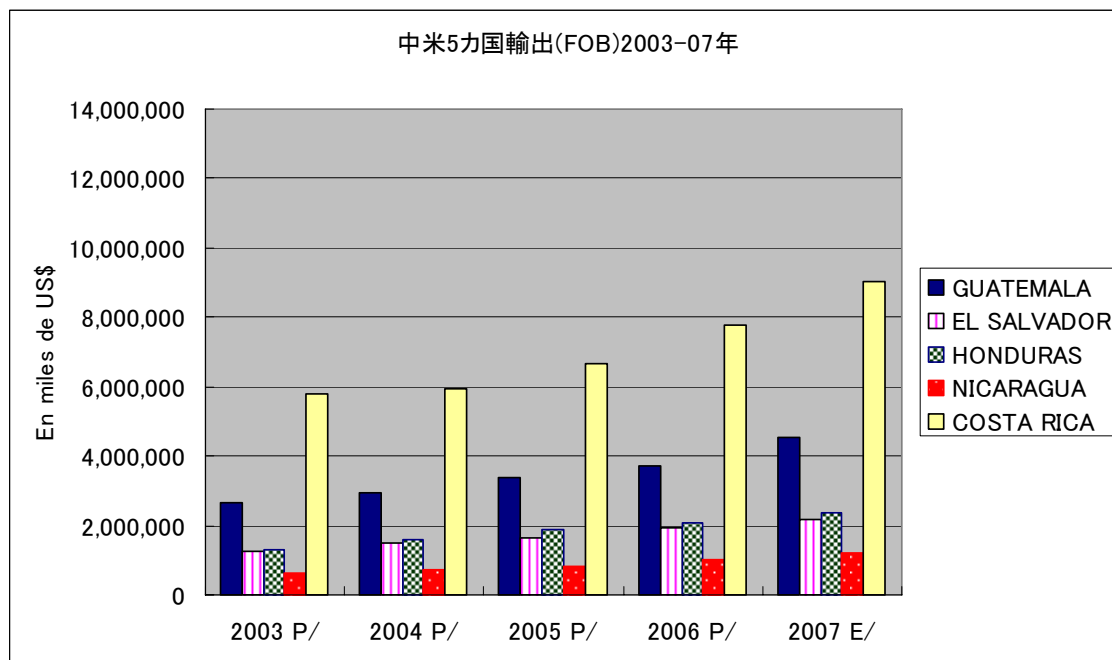
中米経済統合一般条約常設事務局(SIECA)が「統計報告(Boletín Estadístico)16. 1 号(2008 年度第 1 号)」を刊行し、中米 5 カ国(グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ)の中央銀行や担当省庁の公表する主要な経済指標、ならびに統計(2003－07 年。

2003－06 年は暫定値、07 年は推定値を採用。)を総括した。

※マキラ産業(保税加工区)からの輸出入は除外

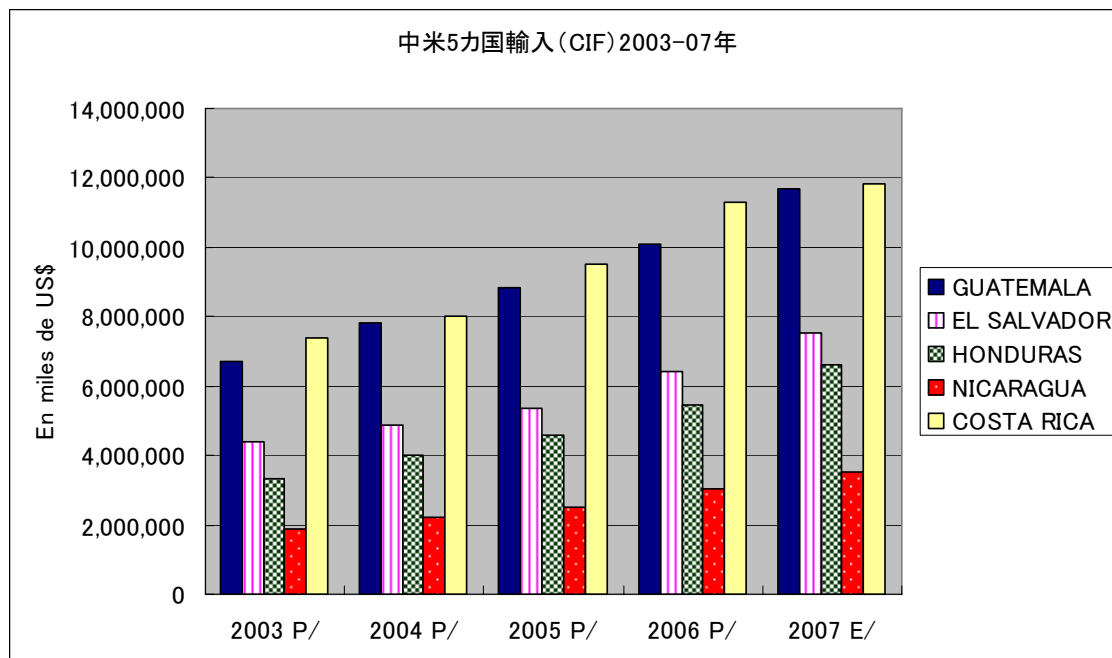
● 中米 5 カ国の貿易: 輸出

- ・コスタリカが他国に比して高く、中米 5 カ国の輸出の合計の 48%を占める。
- ・以下、グアテマラ 23%、ホンジュラス 12%、エルサルバドル 11%、ニカラグア 6%。



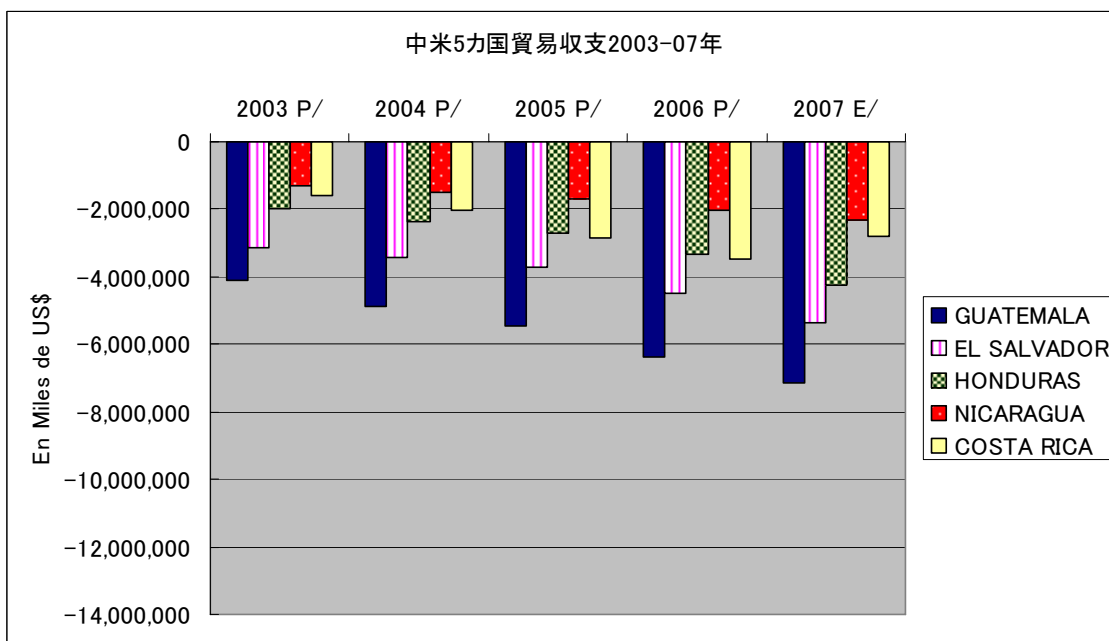
● 中米 5 カ国の貿易: 輸入

- ・コスタリカとグアテマラが高く、中米 5 カ国の輸入のそれぞれ 29%、28%を占める。
- ・以下、エルサルバドル 18%、ホンジュラス 16%、ニカラグア 9%。



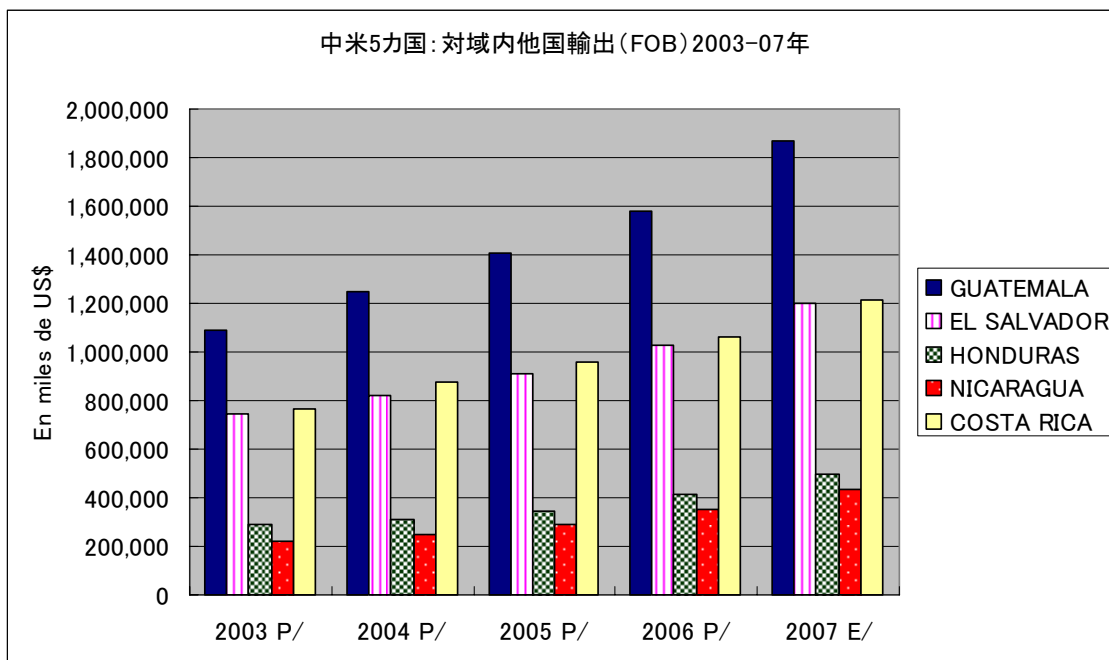
●中米5カ国の貿易:収支

- ・各国ともに収支は赤字であるが、グアテマラが最大の赤字国で、中米5カ国の貿易赤字の33%を占める。
- ・以下、エルサルバドル 24%、ホンジュラス 19%、コスタリカ 13%、ニカラグア 11%。



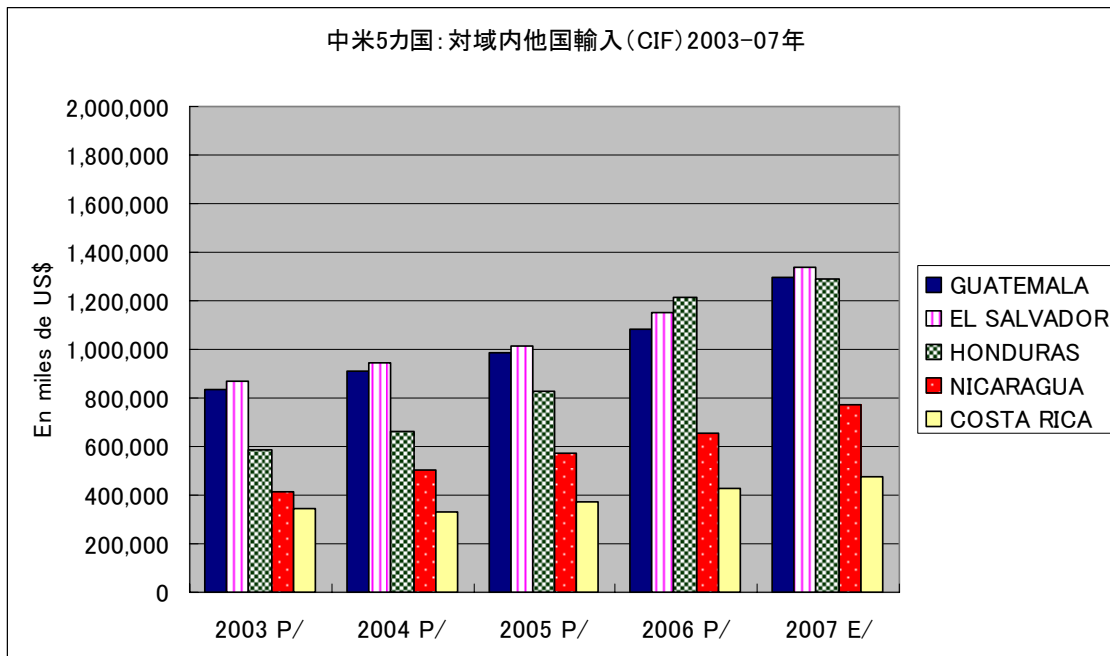
●中米 5 カ国の域内貿易：輸出

- ・グアテマラが他国に比して高く、中米 5 カ国の域内輸出の合計の 37%を占める。
- ・以下、エルサルバドル 23%、コスタリカ 23%、ホンジュラス 9%、ニカラグア 8%。
- ・各国の輸出に占める対中米他国輸出の割合では、エルサルバドルとグアテマラが高く、それぞれ 55%、41%。続いてニカラグア 36%、ホンジュラス 21%。
- ・コスタリカの輸出に占める対中米他国輸出の割合は 13%と低い。



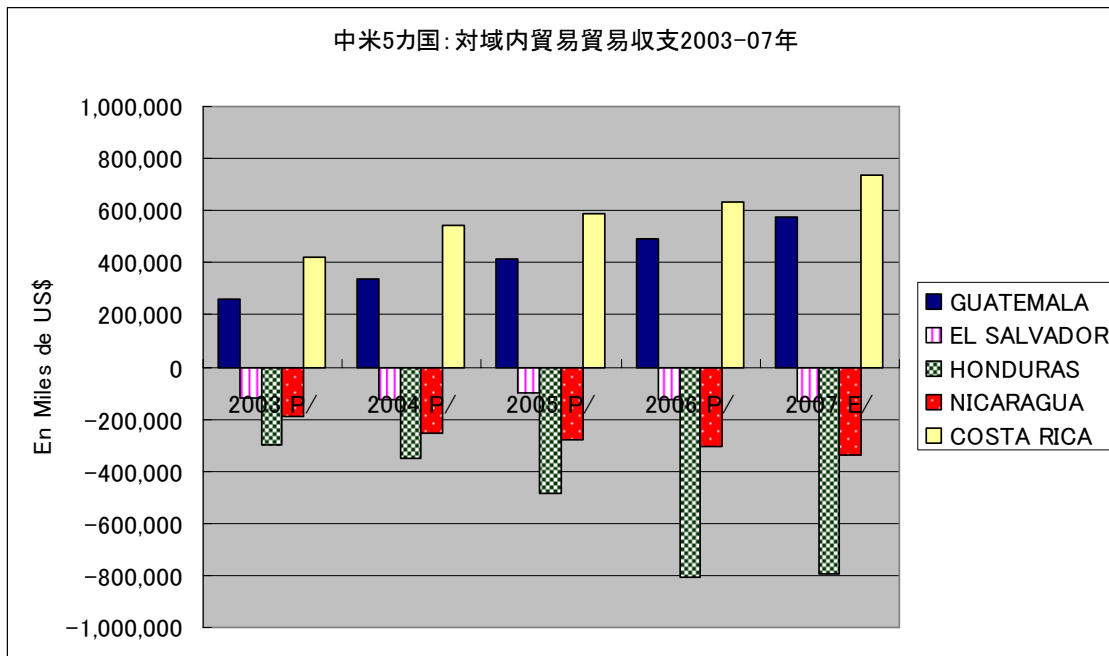
●中米 5 カ国の域内貿易：輸入

- ・エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラスが高く、中米 5 カ国の域内輸入の合計の、それぞれ 26%、25%、25%を占める。
- ・続いて、ニカラグア 15%、コスタリカ、9%。
- ・各国の輸入に占める対中米輸入の割合では、ニカラグアが 22%と高く、次いでホンジュラス 20%、エルサルバドル 18%、グアテマラ 11%。
- ・コスタリカの輸入に占める対中米他国輸入の割合は低く、わずか 4%。



● 中米 5 カ国間の域内貿易：収支

- ・域内貿易においては、コスタリカとグアテマラが黒字国、ホンジュラス、ニカラグア、エルサルバドルが赤字国。
- ・コスタリカは最大の黒字国で、かつ 2003-07 年間の黒字成長率も 77%と大きい。
- ・続く黒字国はグアテマラで、2003-07 年間の黒字成長率は 124%とコスタリカを上回る。
- ・最大の赤字国はホンジュラスで、かつ 2003-07 年間の赤字幅拡大も 166%と最大。
- ・続く赤字国はニカラグアで、2003-07 年間に赤字幅は 77%拡大。
- ・エルサルバドルも赤字国ではあるが、2003-07 年間赤字幅の拡大は 11%と、他の赤字国に比して小さく抑えられている。



(2) ロン・サカパ、英ディアジオ (DIAGEO) と提携

グアテマラを代表するラム酒、サカパ・センテナリオを製造するIndustria Licorera de Guatemalaは、アルコール飲料の一流ブランドを取り扱う総合酒類メーカー、英国のディアジオ (DIAGEO) 社との提携を発表した。現在、サカパ・センテナリオの 80%はグアテマラ国外に輸出されており、輸出先はイタリアが多いとされるが、今後、ディアジオ社と共に世界的な販売拡大を目指す。

ディアジオは、スミノフ、ジョニーウォーカー、ギネス、ベイリーズ、J&B、キャプテンモルガン、クエルボ等を扱い、世界有数のプレミアム・アルコール飲料ビジネスを展開している。